



# 元気な農<sup>む</sup>山<sup>ら</sup>漁村



むら  
ディスカバー農山漁村の宝（第7回応募団体）  
取組事例集

## 【お問い合わせ先】

中国四国農政局高知県拠点地方参事官室  
〒780-0870 高知県高知市本町4-3-41 高知地方合同庁舎  
☎088-875-7236

中国四国農政局農村振興部農村計画課  
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号  
☎086-224-4511（代表）

高知県

令和3年3月  
中国四国農政局

## 発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和2年度）で7回目となります。

中国四国農政局管内では144件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として13地区と2名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として12地区と2名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和3年3月  
中国四国農政局農村振興部

# 目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について .....	1
○ 応募団体一覧 .....	6
○ 応募団体位置図 .....	7
○ 応募団体の取組事例 .....	8

## 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

### 1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）では、令和2年7月1日から9月4日までに、農山漁村活性化の取組として全国から794件（管内からは144件）の応募があり、11月4日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定）有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として28地区と個人部門として4名が選定されました。

中国四国農政局管内からは優良事例として6地区が選定され、その中からコミュニティ部門の部門賞（準グランプリ）に山口県山口市の「株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ」、ビジネス部門の部門賞（準グランプリ）に徳島県阿波市の「GOTTSO阿波」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

### 2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった144件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和2年10月26日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、13地区と2名を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として12地区と2名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」  
選定地区オリジナルロゴマーク

### 3. 選定地区（管内）の概要

#### （1）全国版選定地区（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第7回選定））

##### 株式会社ウッドスタイル（島根県松江市）

- 丸い竹を平らにする事により「新素材」として新しいマーケットを広げ、家具や建材等に竹を有効活用。
- 竹の伐採・利用により、放置竹林の解消や石見銀山世界遺産センターの展示什器の新設など地域に貢献。



地元小学生とともに石見銀山の竹の伐採

##### 裳掛地区コミュニティ協議会（岡山県瀬戸内市）

- 移住者の受入による地域人口の維持を主眼に、情報発信や空き家等の整備、外部との交流機会を創出。
- 地域独自の寺子屋「もかけてらこや」の開設や、小学校支援地域本部の設置を通じた支援なども実施。



移住者受入のための空き家を整備

##### 株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ（山口県山口市）

###### 準グランプリ受賞地区

- 6次産業化を達成している畜産業者が、近隣農家とともに鶏に食べさせる餌まで作る、7次産業化の取組。
- 飼料用米の生産・活用により、耕作放棄地の解消や環境・景観の保全、地域資源を活用した循環型農業の実現に貢献。



本取組による飼料用米を給餌する  
国産鶏種「丹精國鶏」

##### GOTTSO阿波（徳島県阿波市）

###### 準グランプリ受賞地区

- 地域のPRや食育、農業・野菜の魅力を発信し、所得向上や農業人口の増加を目指して活動。
- 地元ブランド野菜を使った地元幼稚園・小学校での食育や、オリンピックでの納品を目指したグローバルGAPの取得を実施。



2020年度のPRポスター

##### 木沢林業研究会（徳島県那賀町）

- シカに食害されないミツマタに着目し、生産から出荷・商品開発まで取り組み、限界集落の活力を取り戻す。
- ミツマタの新商品の開発・流通に成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。



ミツマタの白皮剥ぎ作業

##### 愛媛県立土居高等学校情報科学部（愛媛県四国中央市）

- 地元の日本3大原産地の一つである五葉松の盆栽農家が存続の危機に直面しており、存続に向けた取組を実施。
- インバウンド盆栽ツアーの実施や、コロナ禍におけるオンラインの活用により地方創生に貢献。



インバウンド盆栽ツアープランの  
商品化

## (2) 地方版選定地区（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

### 株式会社 センコースクールファーム鳥取（鳥取県湯梨浜町）

- 梨の木のオーナーを当初は社員を対象に募集していたが、令和元年から一般募集も開始。
- 梨の管理はプロジェクトが行い、オーナーへ生育状況をネットで配信。
- 収穫時期には収穫体験をしてもらい、収穫した梨は自宅に届け、賞味してもらおう。
- 希望に応じて青果から梨ジュースや梨ドレッシング等の加工品への交換も可能。



梨オーナーの収穫体験

### 里山照らし隊（島根県雲南市）

- 独居高齢者宅や離農者が所有する田畑の草刈りを、応援者とともにを行い農村景観を保全。
- 田植えや稲刈りなどの農業体験や、竹林などの自然環境を生かした子供達のアートイベントも、民間団体等との協働事業として取り組む。
- 森林資源を活かす新しい技術として開発された、木炭を原料にした炭の蓄電器の製造・開発の社会実験を開始。



草刈り作業後の記念撮影

### 有限会社 木村有機農園（島根県雲南市）

- 平成11年より環境保全型農業に取り組み、中山間の環境を活かした農業、有機栽培等に取り組む。
- 新規需要米で高アミロース米を栽培し、100%米粉麺「田守り麺」を製造。製造特許も取得。販路拡大にも取り組む。
- 農家レストランと産直を2店舗開設。
- 島根県立農林大学校のサテライト校として農業体験実習や視察研修を受け入れている。



産直市「よってごしな菜」

### 植田 輝義（岡山県岡山市）

- 全身黄色を身にまとい、自称黄ニラ&岡パク大使として、メディア（TV、ラジオ等）に出演し、産地のPRに取り組む。
- 黄ニラ&パクチー取り扱い飲食店増加計画やイベント等を実施。
- 地産地消や学校給食への取組、支援学校、ケアハウス等と連携を強化し活動を展開。
- 個人事業主から農業生産法人（株式会社アーチファーム）を設立。設立直後、西日本豪雨で被災したが、壊滅状態から復興。



全身黄色！自称黄ニラ&岡パク大使として活動

### 日生町漁業協同組合（岡山県備前市）

- 毎年、アマモの繁殖期に花枝採取～保管（葉や茎を海中で腐らせる）～10月頃種を選別し播種する取組を継続。
- アマモ再生活動は、日生藻場造成推進協議会（H21 設立）124名で活動。
- 地元の小中学生や高校生、消費者団体との連携による体験活動を実施。
- 平成28年に「全国アマモサミット in 備前」を当地で開催。



日生藻場造成推進協議会のメンバー

### 菅 秀和（広島県尾道市）

- 営業活動を兼ねたブランディングの手段として小売り店や飲食店にワークショップやセミナー企画を提案。
- コロナ禍を踏まえ、ネット型農業学校の講師を受け、就農希望者へ自身の経験を通して、考え方や方法論を伝える。
- 規模拡大時のインシヤルコストの問題を解消するために、レモンを使った商品開発や業態開発を飲食店や外食企業に提案。
- 微生物資材を多用した土作り等に取り組む。



観光複合施設でマルシェ企画提案

### 阿知須まち開発株式会社（山口県山口市）

- 地産地消パンの開発プロジェクトを企画。山口県オリジナル野菜を使用した、「はなっこりーの花パン」をはなっこりー生産者・養蜂家・パン職人・道の駅駅長の女性4人が中心となり開発した。
- 東京からリターンした若手女性和菓子職人と連携し、道の駅オリジナルの阿知須饅頭を共同開発。
- 地域の加工者や生産者の交流支援を実施。



開発した「はなっこりーの花パン」

### 萩酒米みがき協同組合（山口県萩市）

- 「酒米生産、とう精、醸造」の全ての工程を組合で行う、「オール萩阿武」ブランドの酒造りに取り組む。
- 「田植え、稲刈り体験」のほか、地酒と地元食材で作った料理で消費者と交流するイベント『やっぱ地酒でnight』を開催。
- 高品質米生産に向けて統一した栽培基準を作り、年3回、「生産者、酒造会社、JA、行政」で生育状況の確認を実施。



酒米生産から醸造まで「オール萩阿武」ブランドのお酒

### 農事組合法人 ウエスト・いかち（山口県柳井市）

- 共同活動により農地や農業用施設を維持管理し、大型農業機械の導入により大規模で効率的な営農を展開。
- 農産物の加工・販売により高齢者や女性の就労環境の改善と県内女性起業ネットワークへの参加。
- 大学生のファームステイを受け入れ、都市農村交流に取り組む。



女性部による農産物の加工・販売

### かみかつ棚田未来づくり協議会（徳島県上勝町）

- 棚田資源を活用した「棚田50の冒険」の冊子の制作に取り組む。
- 4つの棚田地域のお米をブレンドした棚田アイスを開発。「棚田アイス・ウェブ試食交流会」を開催予定。
- 「ウェブ棚田談議所」を開催。「ナイトツーリズム」「電動キックボード」等をテーマにウェブで交流。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により抜本的に活動方法を転換。



棚田アイス

### 塩飽部隊（香川県丸亀市）

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の実地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集まり、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人 You-Tuber による手島の動画配信中。



島民と京大生による竹林伐採

### 松山東雲短期大学しののめベジガール（愛媛県松山市）

- 愛媛県産品を使用した朝食レシピの考案。カゴメ（株）と連携した野菜スムージー・野菜スープを考案。また、野菜を使用したベジスイーツを開発。
- マルシェ等に出店し、野菜スープやベジスイーツの販売を通して食育に取り組む。
- 小学生の親子を対象に、大豆の播種から収穫の農業体験と、収穫した枝豆を使用したオリジナルレシピの調理を実施。



カゴメ(株)イベントで野菜・朝食摂取PR

### 愛媛県立丹原高等学校園芸科学科 GAP 班（愛媛県西条市）

- GAP 認証の取得に取り組み、審査に必要な書類については生徒自ら作成。GAP 認証に係る審査は公開し、取組の発信を行った。
- GAP 認証取得による取引拡大と当校の PR のため、台湾への輸出に取り組み、生徒 20 名による台湾でのプロモーション販売を行った。



GAP 審査(現地調査)

### 愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（愛媛県伊予市）

- びわ葉パウンドケーキ・ソラマメカレー・伊予風土パスタ等地域食材を使用したレシピの開発。
- 農業の授業で野菜について学習していることから、地元農家から野菜を提供してもらい、子ども食堂で料理を提供。
- 他校へも地域食材を使用したレシピを提供。海外からの視察を受け入れ、地域食材を使用した料理の試食を行う。



子供食堂への参加  
—地元農家との連携—

### 沢渡茶生産組合（高知県仁淀川町）

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶（沢渡茶）も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が（株）ピバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。



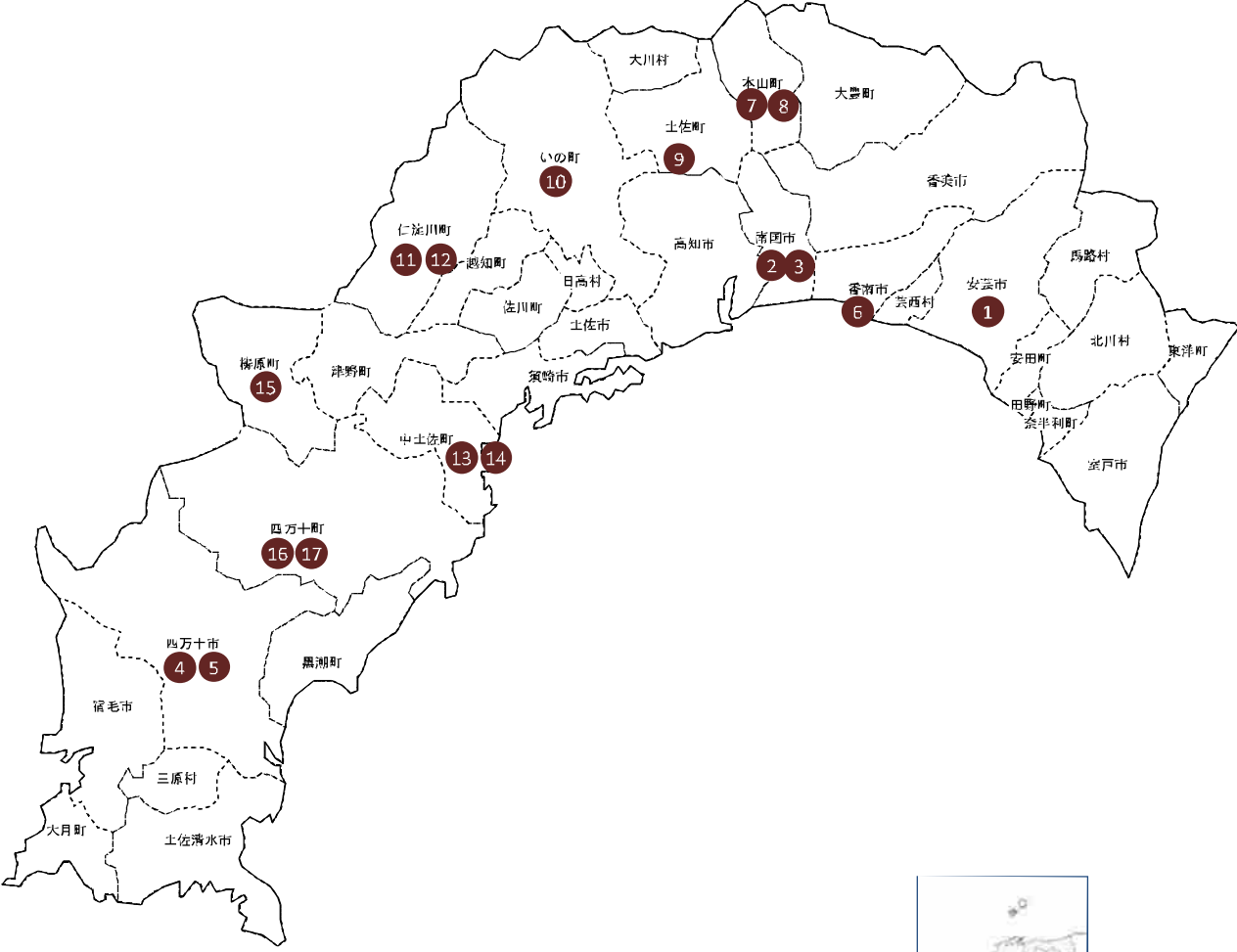
お茶摘み体験ツアー



「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定) 応募団体 一覧 (高知県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	安芸市	入河内大根のこそう会	伝統の継承	高齢者の活躍	その他(地域おこし)
②		コミュニティ	南国市	白木谷ゆめファクトリー	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	—
③	奨励賞	コミュニティ	南国市	農家レストラン「まほろば畑」	高齢者の活躍	その他(地元食材 の提供・活躍、女 性の活躍)	—
④		個人	四万十市	林 大介	伝統の継承	6次産業化	学生・若者の 活躍
⑤		コミュニティ	四万十市	道の駅よって西土佐(株式会社西土佐 ふるさと市)	雇用	6次産業化	—
⑥		コミュニティ	香南市	西佐古みどりの会	環境保全・ 景観保全	—	—
⑦	奨励賞	コミュニティ	本山町	汗見川活性化推進委員会	農林漁業、 農村文化体験	6次産業化	その他(住み続 けたい地域づく り)
⑧		コミュニティ	本山町	吉延営農組合	鳥獣被害防止	環境保全・ 景観保全	その他(交流人 口の拡大)
⑨		コミュニティ	土佐町	いしはらの里協議会	農林漁業、 農村文化体験	移住・定住	—
⑩		コミュニティ	いの町	農事組合法人上東	環境保全・ 景観保全	高齢者の活躍	その他(関係人 口の拡大)
⑪		ビジネス	仁淀川町	沢渡茶生産組合	伝統の継承	雇用	6次産業化
⑫		ビジネス	仁淀川町	農事組合法人 池川茶業組合	伝統の継承	雇用	6次産業化
⑬	奨励賞	ビジネス	中土佐町	おおのみエコロジーファーマーズ	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	教育機関との 連携
⑭		ビジネス	中土佐町	大野見七面鳥生産組合	食育・教育	6次産業化	学生・若者の 活躍
⑮		ビジネス	梶原町	梶原町森林組合	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	雇用
⑯		ビジネス	四万十町	しまんと新一次産業株式会社	伝統の継承	雇用	—
⑰		ビジネス	四万十町	株式会社 サンビレッジ四万十、 一般社団 法人 四万十農産	農林漁業、 農村文化体験	雇用	—

## 応募団体位置図（高知県）



1

あさし  
高知県安芸市

伝統の継承

高齢者の  
活躍その他  
(地域おこし)

にゅうがうちだいこんのこそうかい

## 入河内大根のこそう会

～「入河内大根」で地域おこし～



学生の収穫体験



入河内大根を使った料理

## 経緯

- 入河内地区だけで栽培されてきた伝統野菜であった入河内大根が、他の大根と交雑して失われる危機に直面。
- 平成18年、地域の農家を中心に入河内大根の栽培を通じた地域活性化のため、「入河内大根のこそう会」を結成。

## 取組内容

- 共同圃場(2a)を設け会員が共同で栽培。収穫体験や調理の体験交流など、まちとむらの交流を促進。
- 野菜ソムリエ等を通じて、県内有名ホテル、レストラン、料亭等に提供。
- 地元の指定管理者の温泉施設と連携し、「入河内大根」をメニュー化。
- 量販店や市場を通じた販路の拡大。

## 活動の効果

- 入河内大根を使った料理がメニュー化され、高知県を代表する伝統野菜としても知名度が向上し、地域住民の意識も変わり、入河内大根が地域の代表作物であると誇りを持つようになった。また、入河内大根が地域内外とのコミュニケーションの媒介として大きな役目を果たしている。
- 地区住民に種を無料配布し、栽培人口が17人から20人に増加(H25→R元)。栽培面積も休耕田を活用し、30aから50aに増加(H25→R元)。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

入河内大根の伝承のため、栽培や調理方法の研究、レシピの配布などに取り組んでいます。

高知県安芸市入河内588(東川公民館内) Tel:0887-32-3031

しらきだにゆめふあくとりー

## 白木谷ゆめファクトリー

～山々の谷間谷間に夢がある(四方竹仙人)～



竹林整備の共同作業・竹の有効活用



たけのこ・四方竹の共同加工場完成

## 経緯

- 少子高齢化に伴う景観の荒廃、放任竹林の増加防止を目的に、平成23年に「白木谷ゆめクラブ」が発足。
- 平成29年に共同加工場が整備されたことを機に、組織名を「白木谷ゆめファクトリー」に改名。

## 取組内容

- 竹林の管理受委託により放任竹林を整備し、放置竹林の解消を図る。
- 竹林整備で伐採された竹はチップ化、パウダー化し、孟宗竹・四方竹園場へ還元。
- 収穫されたたけのこは、ボイルや寿司、乾燥たけのこなどで直販所を中心に販売。
- たけのこ掘り体験を通じて市内外と交流。

## 活動の効果

- 放任竹林整備作業による景観荒廃の解消。伐採により生じた竹の有効活用の体制が構築された。
- 地域農産物の加工品開発により、農閑期にも収益が得られるようになり、地域の所得向上に繋がった。
- 商品の県外への販路を拡大したことで、白木谷集落の認知度がアップし、地域の活性化にも寄与している。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

竹林整備や農産物の生産・加工・販売の体制を強化し、非農家も含めた集落全体での活性化を目指します。また、「たけのこ掘り体験」「たけのこ料理づくり体験」を展開し、集落のファンを増やしていきます。

のうかれずとらんまほろばたけ  
 農家レストラン「まほろば畑」

～南国の美味しい野菜いっぱい農家レストラン～



農家レストランのオープン時の様子



農家レストランのバイキング料理盛付け例

## 経緯

- 農山村女性グループの交流を図り、地域の豊富な食材を生かした料理を提供する活動ができないか検討。
- 付加価値の高い地域特産品や郷土料理の研究・開発、地域の野菜とふるさとの味を広く宣伝することを目的に、「農家レストランまほろば畑」を設立。

## 取組内容

- 「道の駅南国風良里」の2階カフェレスト定休日の火曜日を利用し、まほろば畑の女性グループが工夫料理や郷土料理などをバイキング形式で提供。
- 料理レシピ集を過去2回作成。営業日にはおすすめレシピを配布。
- 地元2高校と連携し「高校生レストラン」「コラボレストラン」を開催。

## 活動の効果

- 令和元年には年間5,600人ほどの来店者があり、6月には6万人を達成。南国市産野菜の認知度アップと消費拡大により、地域の活性化にも寄与。
- 地元小学生のバイキング体験、また高校生レストランを開催し、若い世代と食を通じて連携を深め、郷土料理の伝承と地産地消の推進につながっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

昔なつかしい味、ほっと安らげるおもてなしを皆様にご提供いたします。あつたかほんわか農家レストラン「まほろば畑」で皆様のご来店をお待ちしています。

4

しまんとし  
高知県四万十市

伝統の承継

6次産業化

学生・若者の  
活躍はやし たいすけ  
林 大介

～四万十川天然鮎を世界一に！～



ワインに合う鮎のコンフィ商品



鮎の塩焼きコンテスト世界一決定戦

## 経緯

- 四万十川西部漁協鮎市場に市場長として30年勤務したことにより、地域の漁師、川の状況、鮎の生態を深く知った。
- 道の駅駅長に就任したことを機会に鮎市場と道の駅を連携させ、天然鮎の価値を取り戻す活動を2016年より開始。

## 取組内容

- 日本一を目指す！生きた鮎を築地のセリへ【四万十川天然鮎・活魚のプロジェクト】
- 日本の田舎と世界の田舎の融合。【ワインにあう鮎のコンフィの開発】 鮎のコンフィの製造は、地域おこし協力隊を勤め上げ2016年から西土佐地区に移住した青年が行っている。
- 世界的に盛り上がりを見せるスポーツッキング「SCA」。その世界共通ルールで鮎の塩焼きコンテストを開催。

## 活動の効果

- 活動を通じた若者たちが、四万十川の環境・経済を次世代に繋ぐため、鮎の価値の向上へのチャレンジが増加してきた。
- コンフィの開発に携わったターンの若者による、四万十食材を楽しむ飲食店の開店があり、地域活性化に繋がっている。
- 活動の中から地元の若者による「あみ部」が発足し、ベテラン漁師と若者の交流と伝統文化継承に繋がっている。

## 応募者からのアピール・メッセージ

これまでの職歴や実績を超えて、地域の扇の要のように老若男女をつなぎ、交わりをつくる重要な役割を率先して果たされています。背伸びをせず「身の丈」を確認しながら、新しい仲間を受け入れ、新しいことへのチャレンジと地域の理解にじっくり取り組む姿勢といつも明るいその人柄が「地域のたのしい集まり」をつくっています。

高知県四万十市西土佐江川崎4210-3 Tel:0880-52-1398

5

しまんとし  
高知県四万十市

雇用

6次産業化

みちのえきよってにしとさ(かぶしきがいしゃ にしとさふるさといち)  
道の駅よって西土佐(株式会社 西土佐ふるさと市)

～住民がよってたかつて道の駅よって西土佐～



日本で唯一鮎市場のある道の駅



ワークショップにより開発された商品

## 経緯

- 最後の清流と呼ばれる四万十川。そこで取れる天然鮎は、美しい四万十の自然の象徴。
- しかし、漁師の減少、鮎の減少等、四万十川・天然鮎を取り巻く課題は年々深刻化。
- 環境と経済の両面から天然鮎と四万十川の価値を更に高めることで未来の世代に繋げる活動を2016年から開始。

## 取組内容

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。

## 活動の効果

- 活動を通じて鮎の価値を再認識。事業体を超えて関係者が一丸となり、鮎以外の地場産品の価値を再発見する取組に進展。
- 天然うなぎでワインを楽しむイタリアのコマッキオとフレンドシップ提携を締結。また、鮎のコンフィに合うワインの産地であるフランスにもアプローチする中で、四万十川の価値復活に賛同してくれる外部の仲間と、川の価値、鮎の価値の向上、若手の未来開拓に挑戦する流れが生まれている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

あゆ市場や道の駅という地域の価値を発信する立場で、長年にわたり、住んでいる人たちの価値観を正直に誠実に身の丈で表現し、住民と密に接し納得を取り付けてから新しいコトに取り組む姿勢にいつも感銘を受けています。

高知県四万十市西土佐江川崎2410-3 Tel:0880-52-1398

## 西佐古みどりの会

～地域住民が一体となった農村環境づくり～



遊休農地発生防止のための保全活動



咲き誇るアジサイ

## 経緯

- 平成21年6月に地元自治会を中心として「西佐古みどりの会」を設立し、農村環境保全の一環として景観形成・生活環境保全活動の取り組みを開始。
- 農業者・地域住民・団体が一体となった体制をつくり、農地維持・地域資源の向上に取り組む。

## 取組内容

- 農業者・地域住民・団体が一緒となった体制をつくり、水路の草刈り等の農地維持・地域資源の向上に取り組んできた。
- 毎年3回(5月・7月・10月)、自治会が中心となり、地域住民と連携したアジサイの植栽・剪定・草刈り・清掃等、きめ細やかな活動で景観形成に貢献。

## 活動の効果

- 地元の農業者だけでなく土地持ち非農家や地区の団体と協力して農道・水路の草刈り等の維持管理を行うことで地域の団結力が深まる。
- 農村環境保全活動によるアジサイの植栽活動により地域住民との交流も図られるなど、高齢化で厳しい状況の集落に明るい希望を与えた。
- アジサイの植栽が地域の観光スポットになるなど地域内外の住民の交流の場が広がり、地域の活性化に繋がっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

開花中の6月には、毎年TV局が取材に訪れており、1.2kmに及ぶ約19,000株のアジサイを、地元だけでなく県内外から多くの愛好者が観賞に訪れます。家族連れや友人の方と一度のんびり歩いてみませんか？



あせみかわかっせいかすいしんいんかい

## 汗見川活性化推進委員会

～集落拠点を中心に、住みたい「汗見川」の取組！～



平成20年5月から旧小学校を宿泊施設として運営



地元製造会社と協同の商品

## 経緯

- 昭和47年に、地域を流れる川「汗見川を美しくする会」を結成し、次世代につなぐ景観づくり、人づくりを開始。
- 平成13年より、過疎・高齢化や鳥獣被害が進む中、地域住民が地域の継続と活性化を目指した交流事業や景観活動を開始。

## 取組内容

- 植栽伐採による河川沿いの景観整備やツツジツアー、地域運動会などを実施。
- 廃校活用の体験宿泊施設「汗見川ふれあいの郷清流館」でのソバ打ち、ピザ焼きなどの農林業体験、都市農村交流、景観づくり活動などを実施。
- 地域のシソ(全量買取)を活用したアイス、ドリンクの商品化。

## 活動の効果

- 地域挙げての活動内容は、多くのテレビ取材などで情報発信され、視察も年間30団体を超えるなど地域では大きな波及効果を生んでいる。
- 宿泊事業と特産品事業のシソ加工品での収益向上を目指す取組みを展開、事業推進員を増員し新たな挑戦が始まっている。
- 飲み会の場づくりや共同作業などを通じて、移住者の地域活動への参加がスムーズにでき、U・Iターンをする人や増加、高齢化率の低下に結びついている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

過疎、高齢化が進む中、「できる人ができる時に元気な内に何かやっといこう」との声で、活動を前に進めるきっかけになりました。

住民が主体的に拠点事業に取り組むことにより地域人材の育成、地域の支え合いや魅力ある地域を継続する事で、新たな人材の受入に結びつけると共に、住民の生きがいつくりの推進を目指します。地域ファンクラブ「ちっとえいぜよ汗見川」会員募集中！

高知県長岡郡本山町沢ヶ内626番地 Tel: 0887-82-1231

よしのぶえいのうくみあい  
吉延営農組合

～吉延の自然・棚田の原風景を将来へ～



吉延集落の棚田



田んぼアート田植え作業の様子

## 経緯

- 平成12年に中山間地域等直接支払制度の参加をきっかけに、地域の農地を地域で守っていくという意識が醸成。
- 共同で農道の舗装や機械の購入・利用を進め農村環境の保全や持続可能な営農体制の確立を図り、平成19年1月に吉延営農組合を設立。

## 取組内容

- イノシシの水稲被害が増加。国からの交付金を活用し、防護柵を設置。
- 営農組合の共同機械の整備や集落内へのライスセンターの設置など稲作の協業化と農作業受託。
- 高知大学や各関係機関と連携し、田んぼアート、棚田コンサートや棚田散策ツアーを実施。

## 活動の効果

- 共同機械の整備や農作業受託、鳥獣被害防止対策、高齢農家も中山間地域等直接支払制度に参加しやすい体制作りなど、持続可能な営農に繋がっている。
- 地域資源である棚田を活かしたイベントの実施や棚田を見渡せる展望台と駐車場の整備、県内外からも人が訪れるようになった。
- 加工品開発、地域の伝統行事も当組織が中心を担うなど、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりができ、他地域のモデル的な組織となっている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

農地の保全活動にとどまらず、地域活性化を目指した発展的な活動にも広がりをみせ、集落になくってはならない組織となっています。組織の体制強化や人材確保に努め、農村環境の維持・発展を目指します。

いしはらのさときょうぎかい

## いしはらの里協議会

～つどう ふれあう 助け合う いいとこ石原～



直販市「やまさとの市」



子供たちによる告知放送、いしはら未来会議の様子

## 経緯

- 過疎高齢化が進むなか、ガソリンスタンド休止、生活店舗の縮小などを契機として住民によるワークショップを開催。
- 平成24年、いしはらの里協議会を設立し、旧石原小学校を拠点に集落活動センターを開所、小さな拠点づくりに果敢に挑戦中。

## 取組内容

- 集落活動センターを拠点に、農産物・加工品の直販や生活店舗・ガソリンスタンドの運営、旧小学校を宿泊施設に改装した宿泊事業、各種交流事業などを実施。地域の伝統行事の継承。
- 地域資源である木材の活用策としてモデル住宅を建築し、山元から大工さんまで一貫した木材活用策と人材育成に取り組む。
- 高知県内の老舗ホテルの宿泊客を受け入れ、アメゴつかみ体験や田舎料理を提供。

## 活動の効果

- 地域内外の交流機会が増え、地域行事も少しずつ活気を取り戻しつつある。
- 合同会社が運営する生活店舗や直販市「やまさとの市」等での一次産品や加工品の直販をはじめ、農林業体験等の交流事業を通じて住民の所得向上に寄与。
- 若手が軸となる「いしはら未来会議」を創出、「石原の未来像について計画書」を作成し取り組みを開始。その中の「子供たちによる告知放送」は、小学校の廃校後再び子供たちの声が地区内放送を通じて住民に届き、地域に元気を与えている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

様々な活動や取組みを通じて、地域外より石原を訪れる方が着実に増え、同時に石原のファンも増えている。地域内外の協力者を巻き込みながら、体験メニューや情報発信などソフト面を整備し、5年後、10年後を見据えた持続可能な集落運営の実現を目指す。

## 農事組合法人 上東

～未来へ生き生きと暮らせる上東を目指して～



農事組合法人上東 設立総会



ドローンによる試験防除作業

## 経緯

○平成12年度から各集落で中山間地域等直接支払制度に取り組んでいたが、耕作者の高齢化及び担い手不足による農地荒廃等の課題が生じた。平成21年度に地域の農地維持の核組織「上東地区営農組合」を設立し、一つに統合。平成31(2019)年1月に「農事組合法人上東」を設立。

## 取組内容

- 荒廃農地を再生し、地域の農地を守る活動を開始。集落営農組織主体で水稻機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。
- 酒米の栽培やニラ、加工用ワサビなど新たな園芸品目を導入。
- 3月末の「カタシの花祭り」時期に合わせ、都市住民との交流を図る。

## 活動の効果

- 共同機械の利用面積の維持拡大。
- 新規作物(ニラ、加工用ワサビ等)の栽培面積拡大。
- ユズ栽培により耕作放棄地の解消及び発生防止。
- 「カタシの花祭り」の開催を通じてミュージシャンの山村誠一氏とつながり、共同で上東PAN(スティーλπ)の学校運営開始。地区外の上東地区ファンが増加。

平成27年度多面的機能発揮促進事業中国四国農政局長表彰 中山間地域等直接支払部門最優秀賞受賞

## 応募団体からのアピール・メッセージ

地域住民一体で、中山間地域での農業の大切さ、農村集落の素晴らしさ、田園風景の維持に取り組んでいます。カタシの花祭り、上東PANの学校を見に来てください。

高知県吾川郡いの町上八川甲1934(いの町吾北総合支所産業課) Tel:088-867-2313

11

にょどがわちょう  
高知県仁淀川町

伝統の継承

雇用

6次産業化



さわたりちやせいさんくみあい

## 沢渡茶生産組合

～沢渡の茶 400年の歴史を次世代へ！～



お茶摘み体験ツアーのようす



ダム湖に茶園が映える沢渡地区の風景

### 経緯

- 400年の歴史を誇る沢渡地区の茶畑は、山林を開墾して自然茶から「やぶきた」種を植栽。上質茶の生産と美しい茶畑の景観を守ってきたが、価格の低下と生産者の高齢化で耕作放棄となる畑が増加。
- お茶づくりと茶畑の原風景を次世代に継承するため、昭和38年に「沢渡茶生産組合」を設立。

### 取組内容

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶(沢渡茶)も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が(株)ビバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。

### 活動の効果

- 互いに助け合ってお茶づくりを継承していくことで、高品質な茶の生産の維持に繋がっている。
- 自然と調和した茶畑を縫うように行われる勇壮な練りなど200年余りの歴史を持つ「秋葉まつり」の伝統と一体化した茶畑の風景を守っている。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

沢渡地区では、若手組合員が茶の加工販売を行い、仁淀川町内にお茶カフェを開店し、更に高知市にも出店するなど、積極的な取組が行われています。地域の各世代が互いに助け合ってお茶づくりを守り、高品質な茶の生産とともに先人から受け継いだ茶畑の風景を次世代に繋げていきます。

高知県吾川郡仁淀川町別枝518-1 Tel:0889-32-1209

12

によどがわちょう  
高知県仁淀川町

伝統の継承

雇用

6次産業化

いけがわちやぎょうくみあい

## 池川茶業組合

～お茶とスイーツの共働！～



池川茶業組合員全員集合！



桜と桃の花に囲まれた白を基調としたカフェ外観

### 経緯

- 農家の高齢化や後継者不足により、地域の茶園の荒廃が進んでいた。また、ペットボトル茶の登場により荒茶の価格が低下し、農家の収入が下落。
- 労働力の有効活用、効率化、品質向上を図るため、8工場を1工場へ統合し、平成5年12月「池川茶業組合」を設立。

### 取組内容

- 30代の担い手が中心となり、茶工場運営や茶畑管理の中心的な役割を引き受け、地域の茶園維持に努める。
- 荒茶から仕上茶「池川一番茶」の販路拡大に重点を移し、週末に高知市内の量販店店頭で試飲即売を実施。
- 組合の女性部で「池川一番茶」を活かしたスイーツを開発し、販売拠点となるカフェを開店。

### 活動の効果

- 荒茶の市場出荷から高品質な仕上茶の小売販売に重心を移したことで、収入が確保された。
- カフェには大型バスで団体も来店、年間2万人が訪れる観光名所となり、地域の活性化と雇用の創出につながっている。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

日本茶インストラクター協会主催の「日本茶AWARD2018」においてファインプロダクト賞を受賞。高品質茶の生産と共に、販路を拡大することで生産に必要な地域の茶畑を維持し、先人から受け継いだ茶園の風景が次世代に継承されるよう努力を続けていきます。

高知県吾川郡仁淀川町坂本1696 Tel:0889-34-3877

おおのみえこころじーふぁーまーず

## おおのみエコロジーファーマーズ

～自然生物を大切にしながら消費者に選ばれる米作り～



高知県立大学COME☆RISHの田植え体験



イベントでの大野見米販売

## 経緯

- 古くからおいしい米の産地として知られる大野見地区において、大野見米を通じて地域・農業の活性化に取り組む「おおのみエコロジーファーマーズ」。
- 大野見米をとおして、将来に望みの持てる産業を確立し、環境保全型農業で四万十川源流域の豊かな自然を次世代に引き継ぐ活動を行う。

## 取組内容

- 高知県立大学健康栄養学部の学生で結成された「COME☆RISH」と連携し、大野見エコ米のPR活動(大野見米を使用したレシピ開発、弁当、定食の販売、日曜日への出店など)を実施。
- 地域の将来を担う小・中学生に、環境保全型農業を行うほ場周辺にどんな生物がいるかを調査する「学外・地域体験学習」を実施。

## 活動の効果

- 学外・地域体験学習により、将来を担う小・中学生が地域に愛着を持ち、地元で就農することを考える契機となることを期待する。
- 米の栽培に使用する肥料を大野見地区で出た牛堆肥を用い、畜産施設からの廃棄物の地域内循環を実現している。
- ブランド米を栽培する農業者・団体を視察し、稲作の栽培基準や栽培方法等を見直した。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

化学肥料、化学農薬を地域慣行栽培の半分に抑える環境保全型農業により、水路や河川がきれいになり、活動も徐々に実を結びつつあります。今後も活動を継続し、大野見で農業や稲作で生きていけるよう頑張ります。

高知県高岡郡中土佐町大野見吉野12 Tel:0889-57-2022

おおのみしちめんちょうせいさんくみあい

## 大野見七面鳥生産組合

～持続可能な「タンパク質」生産を目指して～



ふ化に始まる生産。県産ヒノキを農場に使用



町立の加工施設、町との連携でHACCP取得

## 経緯

- 約50年前に始まった七面鳥の生産は、昭和60年代をピークに減少し、現在は2戸の農家で生産されるのみ。
- 七面鳥の希少性や栄養面での優位性を生かし特色ある一次産業として地域振興に繋げるため活動を開始。

## 取組内容

- 高知大学、ノートルダム清心女子大学と連携し、七面鳥の持つ抗疲労成分を研究。
- アスリートにカラダづくりと食の必要性を発信し、七面鳥の普及拡大を図る。
- 6次産業化を推進するため、町立食鳥加工施設を増築、県版HACCP基準を満たす加工体制を構築中。

## 活動の効果

- 6次産業化の事例発表、小学校、高校、大学での出前授業により七面鳥事業の周知が拡大。
- 大学との連携による七面鳥肉の分析・研究により、良質なたんぱく源としての魅力を発信することで、新規事業へ展開。
- アメリカでの高校生活で七面鳥を知り、日本の体育大学でスポーツを学んだ地域おこし協力隊員を事務局に迎え、アスリート向けに販売を展開。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

七面鳥を大野見地区の広告塔とし、地域の農林水産物全体の地産外商を進め、超高齢・少子・人口減少の町から生き残りモデルを模索していきます。

また、カラダを動かし、適切な食事を摂り、健康で強いカラダを維持するということを、七面鳥というたんぱく源が豊富な食材を通して、多くの人に伝えたい。人生100年に向けて。

高知県高岡郡中土佐町大野見吉野12 Tel:080-6397-2355



ゆすはらちようしんりんくみあい

## 梶原町森林組合

～持続可能な森林経営で森林との共生をめざす～



斧入れ式の様子



住宅用の部材となる杉の木の切り株

## 経緯

- 森林から木材などの林産物を生産するとともに、その事業活動により森林や山村地域の持つ多面的機能の発揮や、山村地域における雇用の確保や地域経済に貢献することを目的に、昭和31年に設立された。
- 温室効果ガス削減、森林資源の循環利用による木材の安定供給や雇用創出への期待に応える。

## 取組内容

- 環境保全の取組を進めている梶原町をモデルに、平成12年10月に団体としては国内で初めて森林認証を取得。
- FSC製品の消費が四万十川清流の自然を守ることのPRにつながるため、その販売を推進。
- どこの森林から産出したか(原産地)を明らかにし、生産者と消費者がお互い確認することができるシステム(顔の見える家づくり)を提供。

## 活動の効果

- 自らの家を支える柱や梁となる木を森林から伐りだす【伐採祈願祭】を10年以上前に行った事をきっかけに、現在では関西圏を中心とした都市部から毎年多くの方々が参加するようになった。
- 産地ツアーでは森林から伐りだされた丸太が製材・乾燥・加工され、どのような工程を経て住宅部材になるのかを実際に見ることのできる工場見学や、世界的建築家【隈研吾】氏設計の施設を巡る事もでき大変好評を得ている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

この豊かな森林資源を適切な管理のもと「伐って、使って、植えて、育てる」循環利用によって、地域の雇用や産業振興、さらには林業・木材産業の成長化や地域創生に貢献していきます。

しまんとしんいちじさんぎょうかぶしきがいしゃ

## しまんと新一次産業株式会社

～食を通じて持続可能な社会を創る～

過去



2018年迄は傾斜地で栽培、  
新植を行っていました。

現在



現在は耕作放棄地(平地)を栗園へ  
転換し、拡大に努めています



地域の食を守りながら、耕作放棄地の  
活用に取組んでいます。

## 経緯

- 約50年前まで北幡地区(四万十町含む)は栗の一大産地であった(約800tの収穫量)が、現在は5～10%の収穫量。
- 生産量を上げる為H24年から山や土地の開拓に取組み、H29年には加工場を設立し、栗の一貫体制に取組む。

## 取組内容

- 栽培:環境保全・収量増の考えから、超低樹高栽培による無農薬栽培を実施。
- 加工:産業創出・品質向上の考えから地元加工場を設立。
- 生産:傾斜地から平地へ、かつ耕作放棄地を栗園へ転換した取組みを継続。

## 活動の効果

- 栗による地域活性の広がり  
傾斜地から平地展開によって栽培意欲が向上。また、高齢化に伴い年々栽培が厳しくなりつつある水田を活用することで、耕作放棄地の解消にも繋っている。
- 栗生産量の底上げ  
四万十栗(ブランド)の継承、及び四万十町全体の栗生産量の拡大。
- 地元産業の活性化  
自社栗園の生産、加工場におけるペースト加工販売による売上拡大、雇用拡大。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

この地域で育ち、この地域でしか味わうことのできない素材、それを加工する技術の継承に努めるとともに、継続できる仕組みづくりを新たに築き、四万十町が食を通じて持続可能な地域となるよう取り組んで参ります。  
何より、地域の人や若者が誇りをもって豊かに暮らしていけるよう取り組んで参ります。

高知県高岡郡四万十町河内279-2 Tel:0880-28-5594

かぶしがいいしゃ さんびれっしまんと いっばんしゃだんほうじん しまんとうのうさん  
(株)サンビレッジ四万十 (一社)四万十農産

～触れてみたい・住んでみたい影野村づくり～



サンビレッジ四万十・四万十農産の皆さん



未来の影野むら



田植から稲摺りまでの体験学習

## 経緯

- 平成11年に設立した「影野の農業を考える会」を経て、平成13年に高知県初の「1集落1農場」方式による集落営農組織「ビレッジ影野営農組合」を設立。
- 雇用の確保、営農の継続性確保のため、平成22年に農事組合法人となり、平成26年に株式会社へ移行。
- 平成29年には広域組織の四万十農産を形成する。

## 取組内容

- 経営の安定化に向け畑作中心とした土地利用型園芸作物(サトイモ、エダマメ、生姜、ネギ、施設ピーマン等)を導入、規模拡大など経営の複合化に取り組む。一方、水稲は四万十農産との輪作体系を実践。
- 両組織で若い従業員8名の育成、集落内の女性17名を臨時雇用するなど、人材育成と雇用を創出。
- 環境に配慮したソーラーシェアリング、圃場環境の美化、農道への梅の木の移植など多面的機能の増進。

## 活動の効果

- 女性・高齢者の就労の受け皿になっており、「地域を守る法人」「就労の場」と認知度が向上中。
- 農地集積面積は11haから26haに増加、雇用人数は3名から8名に増加(H25→R2)
- 持続可能な農業の仕組みづくりがスタートしたことにより、地域に就農希望者が生まれだした。
- 農業が活性することで、地域の魅力アップが出現。
- 畑作化や耕作放棄地の解消に伴う栗・ゆず栽培開始により新産業づくりの声が聞こえだした。
- 県外からの視察も増加(多い時には3回/月)。
- 集落営農の広域化、集落活動センターなど農業以外の組織との連携も強化。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

周年栽培の取組みや野菜の契約栽培と規模拡大、農産物の加工、観光農園等を利用した消費者との交流、商品の高付加価値化等経営の多角化に取り組むことで、地域で一人でも多くの雇用を確保し、地域農業を後世に繋げていきます。

URL:<http://village-kageno.jp>

高知県高岡郡四万十町影野1033 Tel:0880-22-8101